

現実のコミュニケーションにおける 「～ないでください」とは ——日本語教師と一般社会人の言語感覚は どこまでずれているのか

建石始

◆要旨

本稿では、まず「～ないでください」を扱った一連の清ルミ氏による研究（清ルミ 2004, 2005, 2006）を検討し、日本語教師と一般社会人の言語感覚がどこまでずれているのか、これらの研究が想定している現実のコミュニケーションは話し言葉が中心となっているのではないかという問題提起を行った。次に、アンケートの検証調査、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を用いたコーパス調査、貼り紙や取扱説明書といった書き言葉に関する調査を行い、現実のコミュニケーションにおける「～ないでください」がどのようなものを分析した。以上の分析を通して、日本語教師と一般社会人の言語感覚のずれが限定的なものであることを明らかにしただけでなく、現実のコミュニケーションにおける「～ないでください」の諸相も明らかにした。

◆キーワード

～ないでください、現実のコミュニケーション、言語感覚、コーパス調査、書き言葉の調査

◆ABSTRACT

This paper investigates the differences of language senses between the lecturers of Japanese and the public through examining the phrase “*-naide kudasai*” in actual communication. Sei (2004, 2005, 2006) argued that the phrase is used to exhibit concerns and compassion based on spoken language. This study employed the questionnaire from Sei (2004), BCCWJ (Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese), and written materials such as notices on bulletin boards and instruction manuals to disclose divergent use of “*-naide kudasai*”. Results from the questionnaire revealed the differences of language senses between the two groups minimal, and data from BCCWJ demonstrated “*-naide kudasai*” used in situations to prohibit certain actions. Evidently, the phrase appeared frequently in “Yahoo! *chiebukuro*” and in instruction manuals as warnings to prevent people from carrying out certain actions.

◆KEY WORDS

-naide kudasai, actual communication, language senses, corpus, research in written languages

On *-naide kudasai*
in Actual Communication
The differences of language senses
between the lecturers of Japanese and the public
HAJIME TATEISHI

1 はじめに

本稿では、まず「～ないでください」を扱った一連の清ルミ氏による研究(清ルミ(2004, 2005, 2006))を検討し、日本語教師と一般社会人の言語感覚がどこまでずれているのか、これらの研究が想定している現実のコミュニケーションは話し言葉が中心となっているのではないかという問題提起を行う。次に、アンケートの検証調査、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を用いたコーパス調査、貼り紙や取扱説明書といった書き言葉に関する調査を行い、現実のコミュニケーションにおける「～ないでください」の実態を分析する。以上の分析を通して、日本語教師と一般社会人の言語感覚のずれが限定的なものであることを明らかにするだけでなく、現実のコミュニケーションにおける「～ないでください」の諸相も明らかにしたい。

2 先行研究と問題の所在

2.1 清ルミ(2004)

清ルミ(2004)は日本語教科書がコミュニケーション能力の育成の目的に見合った文例を提出しているかどうか、教育に携わる教師自身が教員養成の理念に見合った意識を有しているかどうかをコミュニケーション能力育成の視座から考察している。そして、①日本語教師の言語機能に関する意識は、教科書の“刷り込み”の影響を受けている、②日本語教科書に提出されている文例は現実の言語使用を反映していない、という2つの仮説を立て、(1)一般社会人と日本語教師各100名対象質問紙調査、(2)教育機関売上ベスト8初級教科書対象・導入文例分析調査、(3)シナリオ分析という3つを行っている。

(1)～(3)の分析に際して、清ルミ(2004)は「～ないでください」の機能を以下の7つに分類している。

表1 清ルミ(2004)による「～ないでください」のコーディング(一部抜粋)

A.注意喚起	相手が「しないこと」が当然であると客観的に判断し得る状況下において、話し手が公衆道徳、マナー、ルール、道理等の順守を注意喚起する。(例)ここは駐車禁止ですから、車をとめないでください。
B.禁止	①話し手が自分の利益・権利等の侵害や迷惑・被害を避けるために主観的判断に基づいて相手の行為を制止する。(例)あしたは忙しいですから、私の所へ来ないでください。 ②話し手が管理・支配的立場にいたることが明らかな状況下において相手の望む行為や相手が無意識にしそうな行為を禁じる。(例)医者: 今晚はお風呂に入らないで下さい。 ③上記A、B①、②のいずれか(あるいは下記C、D、Fのいずれか)判断不可能。相手の行為を禁じる。(例)ここで写真を撮らないでください。
C.依頼	話し手が相手に単純な物理的行為を頼む。話し手の心理的負担軽減のための依頼は含まない。(例) a: コーヒーに砂糖入れましょうか。 b: いいえ入れないでください。
D.願望・懇願表示	話し手が相手にこうあってほしいと心情的に願うことや心理的負担軽減のために望むことを表明する。(例)お願いだから話をそらさないで。
E.配慮・気遣い	相手にしないように述べることにより、相手または相手の関わる第三者の心理的・物質的負担を軽減させる。(例)大丈夫ですから心配しないでください。
F.不満・不快表示	相手の言動に対し、①軽率である、②プライバシーへの過干渉、③不適切である等の理由から、話し手が不満や不快感を表明したり、相手をたしなめたりする。(例)寅ちゃんとボチと一緒にしないでよ。
G.照れ隠し・冗談	話し手の照れ隠しや冗談の表明。(例) a: かわいいぞ! 食べちゃいたいくらいだ。 b: 食べないでよ。

(2)教育機関売上ベスト8初級教科書対象・導入文例分析調査については、清ルミ(2005)でも取り上げられているので、以下では主に(1)と(3)を確認する。

まず、(1)一般社会人と日本語教師各100名対象質問紙調査^[註1]であるが、都内在住で教職の経験のない社会人100名と都内在住で何らかの教師養成講座(大学副専攻を含む)を修了した経験2年以上の現職日本語教師100名を対象^[註2]に、「日常のコミュニケーションでよく使われる「ないでください」を含む会話文を一往復か一往復半で一分以内で書いてほしい」という質問紙調査を実施した。回答時間を厳守すること、被験者からの質問は受け付けないこと、複数の被験者に同時に回答してもらう場合は被験者間で話をさせないことなどの条件を設けている。調査場所について、一般社会人対象の場合は習い事、サーク

ル、自治会等を通じての知人、学生時代の友人等であり、日本語教師対象の場合は調査員6名の勤務機関、研究集会場などとされている(清ルミ2004:5)。

質問紙調査の結果、一般社会人の作成した文例では、「気にする」が全体の3割弱、次いで「気を使う」「心配する」「遠慮する」の順に多く、Eの配慮・気遣いが71例で7割強を占めており、Fの不満・不快表示が15例、Dの願望・懇願表示が8例の順に多い。後で見る日本語教師作文例や教科書文例に多い注意喚起は2例のみで、禁止表現も3例しかなかった。また、第1発話者よりも第2発話者のほうが「～ないでください」を使用していた。以上の結果から一般社会人の言語使用において、「～ないでください」は人との関係を円滑にするための配慮を表現する際に最も使用されているのではないかと、また第1発話者の謝罪や感謝を受容し、相手をいたわり、共感を示す表現として一般的に機能しているのではないかと推察している。

これに対して、日本語教師の作成した文例は、喫煙に関するものが33例と約3分の1を占め、駐車が28例、写真、飲酒が各6、入浴4の順に多い。また、喫煙、駐車、写真撮影、飲酒、入浴の文例だけで全体の8割強を占めた。禁止が50%以上で、場面、状況、関係性が特定できない判断不可能な禁止表現が多く作られ、注意喚起も約30%となった。さらに、一般社会人とは異なり、第1発話者が「～ないでください」を使用し、第2発話者が謝罪か受容するという特徴も見られた。以上の結果は(2)教科書分析の結果とも酷似しており、日本語教科書の影響を受けていると結論づけている。

また、(3)シナリオ分析であるが、人気長寿番組『男はつらいよ』と『北の国から』のシナリオを分析している^[注3]。教科書に少ない願望・懇願表示、配慮・気遣い、不満・不快表示、照れ隠し・冗談が『男はつらいよ』では全体の79%、『北の国から』では全体の87%となった。シナリオにおける「～ないでください」の使用は人間関係上の配慮が多く、注意や禁止はごく親しいウチ関係でしか使用されていないとしている。

表2 シナリオ分析の調査結果

	注意喚起	禁止	依頼	願望	配慮	不満・不快	照れ隠し
男	3例	6例	0例	3例	13例	14例	2例
北	3例	4例	0例	11例	24例	10例	2例

2.2 清ルミ (2005)

清ルミ(2005)は、国内外の教育機関で最もよく使用されているベスト8の教科書^[注4]、ワークブック、教師用指導書を分析の対象としている。その結果、場面、人間関係、文脈が曖昧で「禁止」の文であることだけが分かる導入文例が全体の3分の1、ドリル文例では約半数を占めていることが明らかにされた。また、導入文例には1つも見られない「配慮・気遣い」がドリル文例に約18%もあり、教科書に練習ドリルが掲載されている6種全ての教科書で導入文例とドリル文例の間に機能の不整合が見られた。国内外でよく使われている初級教材は、教材開発をする際、言語機能から文例を考えると意識が希薄だったのではないかと指摘している。

2.3 清ルミ (2006)

清ルミ(2006)は、「～ないでください」が提示されている代表的場面に関し、現実に教科書のような会話が交わされているかどうかを考察している。教科書ベスト8に共通する代表的場面は、「風呂に入らないでください」のような医師が患者の日常的行為を禁ずる場面、「写真を撮らないでください」のような美術館員が写真撮影しようとしている客を制する場面の2つである。

これらの場面について、医師が患者の行為を制する場面は看護師にデータ採集を依頼し、美術館員のデータは調査協力者が実際に美術館員の前でカメラを構えることにより発話を引き出し、記録している。

121の医師の発話データを分析したところ、患者の生命に関わりそうもない行為を禁ずる際には、「やめといてください」のような共感性の高い心積もり依頼表現、「やめときましょるか」のような心積もり誘発表現、「しないでもらえますか」のようなあたかも依頼表現の使用率が高かった。また、外科で患者を制しなければ患者に致命的な不利益を与えるようなケースでは、「我慢してください」のような肯定依頼表現、「だめです」のような断定宣告表現、「しないようにしてください」のような否定依頼表現の使用率が高かった。

美術館員の場合であるが、150の美術館員の発話データの分析から、100%が「すみませんけど」のような謝罪および呼びかけ表現を使用していること、

半数が「撮影は禁止されてるんです」のような事実陳述ではなく、「作品に光が良くないもんで」といった規則に関する禁止理由に言及していることなど、相手が納得しやすいよう、相手のメンツを傷つけないための配慮が見られた。また、62%が「すいませんが、カメラは…」のように動詞を使わずに言い切らない形で相手に行動変容を促していた。動詞を使った発話でも、「撮れないんです」のような客の立場に立っての不可能表現や、「あちら側は撮っていただいてもいいんですが、ここはお預かりしている品ですので」のような注意する立場からの代替案提示つき不可能表現が使用され、相手への共感を示すことで丁寧度を高めるコミュニケーションが交わされていた。

医師も美術館員も現実の制止場面では「～ないでください」を全く使用しておらず、いずれの場面でも共感性の高い表現や相手のメンツを傷つけない配慮表現が選択されている。

2.4 問題の所在

清ルミ氏による一連の研究は、いずれも大量のデータを収集し、論点を明確にしたうえで分析を行っているので、高く評価されるべきであろう。また、清ルミ(2006)の現実の制止場面では「～ないでください」を使用しないという指摘は直観的にも納得できるものである。ただし、問題点もいくつか残っているように思われる。例えば、清ルミ(2004)の質問紙調査において一般社会人の言語感覚と日本語教師の言語感覚のずれが指摘されているが、果たして本当にそこまでずれているのだろうか。また、一連の清ルミ氏による研究が想定している現実のコミュニケーションは、会話などの話し言葉が中心となっているのではないだろうか。言い換えると、会話などの話し言葉では「注意喚起」や「禁止」よりも「配慮・気遣い」の「～ないでください」が生じやすいかもしれないが、書き言葉では「注意喚起」や「禁止」の「～ないでください」が生じる可能性も考えられないだろうか。

以上のような問題意識をもとに、3節でアンケートの検証調査、4節でコーパスによる調査、5節で書き言葉に関する調査を行う。

3 アンケートの検証調査

清ルミ(2004)による質問紙調査^[註5]の妥当性を検証するために、学生、大学事務職員、一般社会人に対して、清ルミ(2004)が使用したのと同じ質問紙を用いた検証調査を行った。以下では、3.1で学生に対する調査、3.2で大学事務職員に対する調査、3.3で一般社会人に対する調査の結果を報告する。

3.1 学生に対するアンケート調査

数年後には大学を卒業して一般社会人になるので、学生も一般社会人の予備軍として位置づけることが可能であろう。そこで、学生に対するアンケート調査を行った。調査実施日は2012年11月19日(月)で、調査対象者は筆者が担当している「日本語学入門」の受講生63名である^[註6]。調査結果をまとめると、表3のようになる。

表3 学生による「～ないでください」の調査結果

注意喚起	禁止	依頼	願望	配慮	不満・不快	照れ隠し
5例 (7.8%)	42例 (65.6%)	4例 (6.3%)	0例 (0%)	3例 (4.7%)	10例 (15.6%)	0例 (0%)

学生に対するアンケート調査では、「注意喚起」と「禁止」が70%以上を占めたのに対して、「配慮・気遣い」は5%以下であった。学生に対する調査結果は「注意喚起」と「禁止」が多いという点で日本語教師に対する調査結果とよく似たものとなっている。

3.2 大学事務職員に対するアンケート調査

次に、一般社会人により近い人物として、大学事務職員に対する調査を行った。調査実施日は2013年2月20日(水)で、調査対象者は神戸女学院大学に勤務する事務職員25名である^[註7]。調査結果をまとめると、表4のようになる。

表4 大学事務職員による「～ないでください」の調査結果

注意喚起	禁止	依頼	願望	配慮	不満・不快	照れ隠し
3例 (12%)	12例 (48%)	1例 (4%)	0例 (0%)	1例 (4%)	7例 (28%)	1例 (4%)

大学事務職員に対するアンケート調査では、「注意喚起」と「禁止」が60%を占めたのに対して、「配慮・気遣い」はわずか1例のみであった。大学事務職員に対する調査結果も、学生の調査結果や日本語教師の調査結果とよく似たものとなっている。

3.3 一般社会人に対するアンケート調査

さらに、筆者のゼミに所属する学生の協力を得ながら、一般社会人に対するアンケート調査を行った。調査実施日は2014年5月12日(月)で、調査対象者は阪急西宮北口駅周辺の通りすがりの一般人100名である^[註8]。調査結果をまとめると、表5のようになる。

表5 一般社会人による「～ないでください」の調査結果

注意喚起	禁止	依頼	願望	配慮	不満・不快	照れ隠し	不明・その他 ^[註9]
20例 (20%)	58例 (58%)	2例 (2%)	2例 (2%)	5例 (5%)	1例 (1%)	0例 (0%)	12例 (12%)

一般社会人に対するアンケート調査では、「注意喚起」と「禁止」が78%を占めたのに対して、「配慮・気遣い」は5例のみであった。一般社会人に対する調査結果もやはり、学生、大学事務職員の調査結果や日本語教師の調査結果と非常によく似たものとなっている。

3.4 アンケートの検証調査のまとめ

清ルミ(2004)では、一般社会人の7割強が「配慮・気遣い」の例であり、「注意喚起」や「禁止」の例が少ないということであったが、本稿で行った学生、大学事務職員、一般社会人に対するアンケートの検証調査では、そのような結

果は得られなかった。

調査終了後、学生や大学事務職員に種明かしとして、清ルミ(2004)の内容、つまり一般社会人は「気にしないでください」や「心配しないでください」といった「配慮・気遣い」の例文を作りやすいということを話すと、「なるほど、確かにそうかもしれない」や「納得したが、そのような例は思いつかなかった」といった感想が得られた。このことは裏を返せば、「注意喚起」や「禁止」を作るのが普通であり、「配慮・気遣い」の例文を作る人は現実のコミュニケーションが意識できており、言語感覚が優れていると言えるのではないだろうか。

また、今回の調査において、学生、20代の大学事務職員、若い年代の一般社会人が作成した文例には「私のお菓子を食べないでください」や「飲まないでください」といった飲食に関するものが多いという傾向が見られたものの、日本語教師がよく作成する喫煙や駐車に関する文例はほとんど見られなかった。つまり、日本語教師が教科書の影響を受けているとすれば、喫煙や駐車に関する文例を作ることであって、「注意喚起」や「禁止」を作成すること自体は教科書の影響ではないと言える。

4 コーパスによる調査

4.1 検索方法と検索結果

コーパスによる調査として、『現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ: Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese)』を使用し、「中納言1.1.0」^[註10]で「～ないでください」を検索した。検索方法としては、長単位検索を用い、キーに品詞の大分類が「動詞」+活用形「未然形」、後方共起2語に「語彙素」が「てくださる」+活用形「命令形」を指定した。その条件で検索した結果をダウンロードしたもの(2,672件)をExcelファイルで開き、フィルター機能を使って「ない」が含まれているもののみを抽出した。その結果、合計1,419件が見つかった。なお、「～ないでください」と肯定・否定で対立する「～てください」の検索を行ったところ^[註11]、合計で42,305件見つかった。つまり、「～てください」と「～ないでください」では、30倍近くの頻度の違いが見られたことになる。

4.2 「～ないでください」の機能

1,419件の「～ないでください」の機能について、一つ一つの例文を目で見ながら確認した。1,419件の「～ないでください」の機能をまとめると、表6のようになる。

表6 BCCWJにおける「～ないでください」の機能

注意喚起	禁止	依頼	願望	配慮	不満・不快	照れ隠し
222件 (15.6%)	426件 (30.0%)	89件 (6.3%)	143件 (10.1%)	238件 (16.8%)	296件 (20.9%)	5件 (0.4%)

清ルミ(2004)における一般社会人のアンケートやシナリオ分析では「配慮・気遣い」や「不満・不快」が多かったが、BCCWJでは「注意喚起」や「禁止」のほうが多いことが分かる。

4.3 共起する動詞

次に、1,419件の「～ないでください」が結びつく動詞の上位30語をまとめると、表7のようになる。

表7 「～ないでください」が結びつく動詞

1	する	258	10	出す	18	19	諦める	11	26	服用する	8
2	言う	91	11	来る	16	20	仰る	10	29	為さる	7
3	忘れる	83	11	誤解する	16	20	怒る	10	29	飲む	7
4	心配する	38	11	取る	16	22	勘違いする	9	29	遣る	7
5	思う	33	14	聞く	15	22	捨てる	9	29	間違える	7
6	使う	30	15	使用する	14	22	笑う	9	29	置く	7
7	成る	20	16	行く	13	22	書く	9	29	期待する	7
7	考える	20	16	食べる	13	26	付ける	8	29	驚く	7
9	見る	19	18	入れる	12	26	無理する	8	29	回答する	7

「する」や「言う」など、BCCWJ全体でも使用頻度が高い動詞もあるが、「忘れる」、「心配する」といった「～ないでください」に特徴的な動詞も見られた。

また、「する」の中の60件を占めた「気にする」、あるいは「心配する」、「諦める」、「無理する」といった「配慮・気遣い」で使われやすい動詞もあるが、それ以外の動詞も多数存在していることが分かる。

4.4 「～ないでください」が使われるジャンル

それでは、なぜBCCWJでは「注意喚起」や「禁止」の例が多いのだろうか。BCCWJで「注意喚起」や「禁止」の例が多い理由を探るため、「～ないでください」が使われるジャンルを調査した。調査結果は以下の通りである。

表8 「～ないでください」が使用されるジャンル

ジャンル		表現	コーパス全体	～ないでください	PMW
出版	書籍		28,552,283 (27.2%)	294 (20.7%)	10.30
	雑誌		4,444,492 (4.2%)	35 (2.5%)	7.87
	新聞		1,370,233 (1.3%)	4 (0.3%)	2.92
図書館	書籍		30,377,866 (29.0%)	321 (22.6%)	10.57
特定目的	ベストセラー		3,742,261 (3.6%)	62 (4.4%)	16.57
	白書		4,882,812 (4.7%)	0 (0%)	0.00
	広報誌		3,755,161 (3.6%)	72 (5.1%)	19.17
	法律		1,079,146 (1.0%)	0 (0%)	0.00
	国会会議録		5,102,469 (4.9%)	10 (0.7%)	1.96
	教科書		928,448 (0.9%)	0 (0%)	0.00
	韻文		225,273 (0.2%)	1 (0.1%)	4.44
	知恵袋		10,256,877 (9.8%)	432 (30.4%)	42.12
	ブログ		10,194,143 (9.7%)	188 (13.2%)	18.44
合計			104,911,464 (100%)	1,419 (100%)	

コーパス全体のジャンルの割合と「～ないでください」のジャンルの割合を比べてみると、「～ないでください」は書籍、白書、国会会議録の割合が低く、Yahoo!知恵袋とYahoo!ブログの割合が高い。また、当該のジャンルでの100万語あたりの頻度(PMW)を見ても、Yahoo!知恵袋の頻度が突出していることが分かる。Yahoo!知恵袋は質問者が分からないことをインターネット上で質問し、

回答者がそれに答えるものである。知識を有している回答者が質問者に対して方法や手順を示す際に「注意喚起」や「禁止」を使うため、それらの例が多くなっていると考えられる。

5 書き言葉に関する調査

5.1 注意書きの貼り紙の調査

書き言葉における「～ないでください」の使用実態を調査するために、神戸女学院大学のキャンパス内に掲示されている注意書きの貼り紙を調査した。調査対象としたのは、神戸女学院大学内の機関が発行している学生向けの貼り紙で、合計80枚を調査した。

80枚の注意書きの貼り紙に出現する文は全部で270例であった。そのうち、読み手にある行為を促す「注意喚起」、「禁止」、「命令」、「警告」、「指示」、「依頼」を表す文が174例を占めていた。それらに使われている表現の内訳は以下の通りである。

表9 注意書きの貼り紙に使われる表現

1	～てください	65	8	～ないで（ください）	3
2	名詞を使った表現	35	8	名詞+助詞（へ・に・まで）	3
3	お（ご）～ください	22	10	～ないこと	2
4	～ましょう	14	11	静かに	1
5	終止形	13	11	～ように	1
6	終止形+こと	8	11	～ようお願いします	1
7	～ない	5	11	～をよろしく願います	1

「～ないでください」は「～てください」や名詞を使った表現、「お（ご）～ください」ほどは注意書きの貼り紙に出てきていないことが分かる。「注意喚起」や「禁止」を表す状況、すなわち「～ないでください」が使用されてもよい状況であるにもかかわらず、実際には、「私語は控えて下さい」や「連絡は、やめてください」などの「～てください」、「飲食厳禁」や「使用禁止」とい

た名詞を使った表現、「マニキュアは塗ってこない」の「～ない」、「教室から持ち出さないこと」の「～ないこと」が使用されていた。

5.2 取扱説明書の調査

書き言葉における「～ないでください」の使用実態を調査するために、取扱説明書の調査を行った。具体的には、文具、カップ、おもちゃなど、30製品の取扱説明書を調査した^[註12]。30製品の取扱説明書に出てくる文は合計390例であった。調査結果をまとめると、表10のようになる。

表10 取扱説明書における注意書き

～ないでください/下さい	132例 (33.3%)
～てください/下さい	93例 (21.5%)
お/ご～ください/下さい	36例 (9.2%)
その他	129例 (33.1%)
合計	390例 (100%)

取扱説明書に出てくる注意書きの約3分の1が「～ないでください」であることが分かる。4節のコーパスによる調査では、「～てください」は「～ないでください」の30倍近くの頻度であったが、取扱説明書ではその割合が逆転し、「～ないでください」のほうが多く使用されている。

「～ないでください」が表す「注意喚起」や「禁止」は非常に強い意味を持っている。そのため、大学内の注意書きの貼り紙にはほとんど出てこなかったが、取扱説明書には頻出する。その理由として製品を作る企業側の責任問題ということが考えられる。取扱説明書に利用者がしてはいけないことを明確に書いておかなければ、企業側の責任が追及される恐れがある。そのため、あえて強い意味を持つ「～ないでください」を使うことで利用者に注意喚起を行い、その責任を回避しているのである。今回収集したデータの中でも、特にはさみやカッターナイフといったけがの恐れが強い製品の取扱説明書では、他の製品よりも「～ないでください」が頻出していた。このことも企業側の責任問題との関係を裏づけるデータとなるだろう。

6 おわりに

本稿では、日本語教師と一般社会人の言語感覚がどこまでずれているのか、および一連の清ルミ氏による研究が想定している現実のコミュニケーションは、話し言葉が中心となっているのではないかという問題意識のもと、アンケートの検証調査、コーパス調査、書き言葉に関する調査を行い、現実のコミュニケーションにおける「～ないでください」がどのようなものかを考察した。その結果、日本語教師が教科書の影響を受けているのは喫煙や駐車に関する文例を作るという非常に限定的なものであること、コーパスでは「注意喚起」や「禁止」が最も多く使われていること、「～ないでください」はYahoo!知恵袋や取扱説明書に使用されやすいことなどが明らかになった。

今後の課題としては、さらに多くの一般社会人にアンケート調査を行うことで今回の分析の妥当性を高めること、多くの人が「注意喚起」や「禁止」の「～ないでください」の文例を作る理由を探ることが挙げられる。また、例えば、デパートの注意書き、病院の注意書き、動物園の注意書きなど、数多くの場所の注意書きのデータを収集することによって、「～ないでください」の使用実態をさらに深く追求する必要がある。その他にも、今回の分析を日本語教育の現場にどう生かすのかも検討すべきであろう。例えば、話し言葉では「配慮・気遣い」の「～ないでください」を使えるようにし、書き言葉では「注意喚起」や「禁止」の「～ないでください」を理解できるようにするといった提案を検討しなければならない。

〈神戸女学院大学〉

謝辞

本稿は日本語教育学会2014年度春季大会における口頭発表「現実のコミュニケーションにおける「～ないでください」とは」の内容に加筆・修正を加えたものである。当日は多くの方に有益なコメントをいただいた。また、匿名の査読者からも貴重なご意見をいただいた。心より感謝申し上げる。さらに、アンケート調査に際して、阿部紗子さん、小原奈緒さん、亀本彩音さん、佐田志保さん、濱岸麻由子さんの協力を得た。ここに記して感謝したい。

注

- [注1] …… 調査期間は2002年10月～11月、調査員は筆者と都内複数の日本語教育機関に勤務する日本語教師5名の調査協力者である。
- [注2] …… 社会人100名の年齢は20代19名、30代29名、40代37名、50代10名、60代以上5名、男女別は男性37名、女性63名である。また、日本語教師100名の年齢は20代21名、30代28名、40代21名、50代20名、60代以上10名、男女別は男性16名、女性84名である。
- [注3] …… 以下の表ではそれぞれを「男」、「北」と省略することにする。
- [注4] …… ベスト8の教科書とは、『みんなの日本語』、『新日本語の基礎』、『新文化初級日本語』、『実力日本語』、『Situational Functional Japanese』、『初級日本語げんき』、『初級日本語新装版』、『Japanese for Busy People』である。
- [注5] …… 清ルミ(2004)では「質問紙調査」と呼ばれているが、本稿ではより一般的な名称である「アンケート調査」という用語を用いる。
- [注6] …… 学生の学年は1年生が57名、2年生が4名、4年生以上が2名で、全員が女性である。
- [注7] …… 大学事務職員の年齢は20代3名、30代10名、40代8名、50代4名で、男女別は男性が9名、女性が16名である。
- [注8] …… 阪急西宮北口駅周辺を歩いている人に直接声をかけ、立ち止まって質問紙に記入してもらった形で調査を行った。一般社会人の年齢は10代1名、20代20名、30代9名、40代25名、50代20名、60代以上15名、不明10名、男女別は男性が54名、女性が46名である。
- [注9] …… 不明・その他には「～ないでください」を使った例文を複数列挙したもの(2名)、あるいは、数秒考えた後で「わかりません」、「思いつきません」と答えたもの(10名)が含まれる。
- [注10] …… <https://chunagon.ninjal.ac.jp/>、短単位データ1.0・長単位データ1.0
- [注11] …… キーに品詞の大分類が「動詞」+活用形「連用形」、後方共起1語に「語彙素」が「てくださる」+活用形「命令形」を指定したものをExcelファイルで開き、フィルター機能を使って「てください」、「て下さい」で終わるものを検索した。
- [注12] …… ただし、手順を説明する文章は調査の対象とせず、注意や警告を表す文章のみを扱った。

参考文献

- 清ルミ(2004)「コミュニケーション能力育成の視座から見た日本語教科書文例と教師の“刷り込み”考—「～ないでください」を例として」『異文化コミュニケーション研究』16, pp.1-24. 神田外語大学異文化コミュニケーション研究所
- 清ルミ(2005)「コミュニケーション能力は育つか—「禁止表現」からみた日本語教材」『Speech Communication Education』18, pp.41-54. 日本コミュニケーション学会
- 清ルミ(2006)「禁止の場面における現実の言語表現—医師と美術館員の場合」『世界の日

本語教育』16, pp.107-123. 国際交流基金日本語事業部企画調整課
清ルミ (2012) 「日本語教師には見えない母語話者の日本語コミュニケーション」野田尚
史 (編) 『日本語教育のためのコミュニケーション研究』 pp.43-62. くろしお出版
中俣尚己 (2014) 『日本語教育のための文法コロケーションハンドブック』くろしお出版
日本語記述文法研究会 (編) (2003) 『現代日本語文法4 第8部 モダリティ』くろしお出
版
益岡隆志・田窪行則 (1992) 『基礎日本語文法一改訂版一』くろしお出版
宮崎和人・安達太郎・野田春美・高梨信乃 (2002) 『新日本語文法選書4 モダリティ』く
ろしお出版
李在鎬・石川慎一郎・砂川有里子 (2012) 『日本語教育のためのコーパス調査入門』くろ
しお出版